

平成27年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価表（自己評価）

校 訓	礼節・友愛・創造
学校教育方針	<p>全生寮教育を通して「自他一如の精神（心）」を養い、知恵と勇気と行動力を備えた人間性豊かな人材を育成する。</p> <p>(1) 商業（ビジネス）及び家庭に関する豊かな教養と、専門的知識・技能を兼ね備えた有為な人材の育成</p> <p>(2) 人権に対する正しい理解と知識を深め、基本的人権を尊重する人材の育成</p> <p>(3) 自主的な生活態度と、責任を重んじる人材の育成</p> <p>(4) 文武両道を兼ね備えた、心身共に調和のとれた人材の育成</p> <p>全生寮教育とは、如何なる状況の中でも身を処して誤らない行動の基準を、集団（学校）生活の中で体得するものである。</p> <p>【全生寮本旨】</p> <p>1. 自己のうちに もてる全てを 発揮して 生きよう</p> <p>1. 全ての 他の人を 生かそう</p> <p>1. 全ての 人とともに 生きよう</p>
学校教育目標	<p>(1) 商 業 科 ビジネスの基礎・基本の能力を身に付け、経済社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(2) 情報処理科 ビジネスの基礎・基本の能力を身に付け、情報化社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(3) 家 政 科 生活に関する専門知識と技術を身に付け、生活産業分野に貢献できる人材を育成する。</p>
本校の生活信条	<p>○ 挨拶（島商）しましょう。（心をつなぐ） ○ 掃除（島商）しましょう。（心をこめる） ○ 勉強（島商）しましょう。（向学心をもつ）</p> <p>○ 部活（島商）しましょう。（心身を鍛える） ○ 奉仕（島商）しましょう。（思いやりの心をもつ）</p>
前年度の成果と課題	<p>(1) 全生寮教育を通して基本的な生活習慣の確立を目指し指導を行っているが、時間の経過とともに上級生になるにつれ全生寮本旨の意識が薄れている。2年・3年生の指導も含め、指導のあり方について考える必要がある。</p> <p>(2) 定員確保については、教務部を中心に積極的に中学校訪問を行い体験入学の内容を変更したりクリアファイルなどを作成してPRに努めたが、結果的に目標の120名確保に届かなかった。なぜ、定員に満たなかったのか原因を分析し対策を講じたい。</p> <p>(3) 家庭学習時間の不足が問題となっている。基礎学力が不足している生徒に対して、どのようにして自主的に学習に取り組むべきか、学習を続ける力を引き出すための工夫が必要となっている。ICTを活用した公開授業については、引き続き次年度も行い、わかる授業の推進に取り組みたい。</p> <p>(4) 不登校生徒について、生徒・保護者が医療機関の受診やカウンセリングを受けたにもかかわらず、医療機関との連携や対応について校内での役割分担が出来ず、結果的に担任まかせの所が見られ負担が大きくなった。</p> <p>(5) 大学科商業の各種検定の合格率および全商検定1種目以上1級取得の評価が良くなった。</p>
本年度の重点目標	<p>(1) 基本的な生活習慣を身につける。 「実社会でも通用する礼儀・マナーを身につけよう」</p> <p>(2) 時間を有効に使い、本物の学力を身につける。 「授業を真剣に受けると共に、家庭学習の時間を確保しよう」</p> <p>(3) 部活動に積極的に参加する。 「日々の活動を真剣に行い、心身共に鍛えよう」</p>
モットー 「誠心誠意」	<p>○正直な心と思いやりの心を持つ</p> <p>○些細なことでも手を抜かず心を入れてやろう（挨拶、掃除の徹底）</p>

評価 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

【評価分野】 1 学校経営								
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①学校教育目標	学校教育目標の具現化	学科に即した目標を設定し、教職員の共通理解のもとに目標を達成するための教育活動を行う。	商業科・・・ビジネスの基礎・基本の能力を身に付け、経済社会に貢献できる人材を育成する。	1	3.1	2.9	全職員	島商uppでの取組や民間講師招聘事業など、よい経験ができた。
			情報処理科・・・ビジネスの基礎・基本の能力を身に付け、情報化社会に貢献できる人材を育成する。	2	3.1	3.0	全職員	資格取得には意欲的に取り組むことができた。リアリティのある取組で専門性を高めていきたい。
			家政科・・・生活に関する専門知識と技術を身に付け、生活産業分野に貢献できる人材を育成する。	3	3.1	3.0	全職員	2年生からの選択コースを二つにしたため、検定1級・3冠王・4冠王が増加した。今後は、課題解決能力を高めていきたい。
②学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	教育方針や教育目標等を生徒・保護者・地域等に説明したり、情報を流し、宣伝したりする機会を設け定員確保に努める。	4	3.1	2.8	全職員	正門掲示板やHPの活用は積極的に行うことができたが、新聞やメディアをもっと効果的に活用したPRを行っていくことも必要である。
			各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する。	5	3.0	2.9	全職員	分掌や担当で熱心に職務を遂行しているが、連携が十分とは言えない。重点項目など定期的に確認していく必要がある。
③学年経営	学年目標の具現化	1年 島商生としての自覚を持ち学校生活にうまく適応させる。	全生寮教育を通して基本的な生活習慣を確立させ、高校生活への適応力を養う。	6	2.0	2.0	1学年主任	基本的な生活習慣が確立していない生徒や授業に集中できない生徒がいる。今後も粘り強く指導を続けていく必要がある。
			進路に対する意識を高め、早期に進路目標を決定させる。	7	2.0	3.0	1学年主任	進路については、個人により意識の差が激しいので、早期の情報提供を行っていく必要がある。
		2年 中堅学年としての自覚を促し、人格の陶冶に努めさせる。	日々の授業や家庭学習の充実を図り、学力向上に努めさせる。	8	2.0	2.0	2学年主任	課題がある時だけ家庭学習に取り組む生徒が多く、家庭学習の時間が極端に少ない。
			個人面談や保護者面談を通じて、早期に進路目標を決定させ、その実現に向けて努力させる。	9	2.0	3.0	2学年主任	3年間を通じた進路指導手引きを作成し、生徒・保護者へ周知していく必要がある。
		3年 最高学年としての自覚のもとに、創造性に富む心豊かな人間性の涵養を図る。	規則正しい生活の中で主体的に考え行動する自主・自立の精神を養う。	10	3.0	3.0	3学年主任	欠席も少なく、学校生活の様々な活動で主体的に活動できた。
進路指導の充実を図り、能力・適性を生かした進路選択を指導・援助する。	11	4.0	4.0	3学年主任	粘り強い指導で、個々の能力・適性を生かした進路決定ができた。			
④学級経営	学級目標の具現化	学校目標や学年目標に沿った学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	12	3.1	3.1	担任・副担任	学級目標は設定できているが、目標達成に向けて教室掲示等の工夫をしていく必要がある。

【評価分野】 2 教育活動								
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善ならびに適切な学習指導	各教科で効率的な学習を実践する。	毎日、1時間以上の家庭学習を習慣化し基礎学力の向上を目指す。	13	2.3	2.1	全職員	家庭学習を記録するマイルストーンを活用したことは良かった。今後、良い活用方法を考えていく必要がある。また、課題の出し方を検討する必要がある。
			毎学期、ICTを活用したわかりやすい授業を実践する。	14	2.6	2.5	全職員	環境は整いつつあるが、全教科での実施はできなかった。教材研究を深め、積極的に活用していきたい。
		三年間を見通した目標を設定し、計画的な高資格取得を目指す。	各種検定の合格率を上げ、全商検定1種目以上1級を取得させる。	15	2.4	2.5	商業科 全職員	情報処理科2年の1級取得状況が特に良い。無資格の生徒への指導を検討していく必要がある。
			家庭科検定の合格率を上げ、被服・食物・保育検定で1種目以上1級を取得させる。	16	3.0	3.5	家政科 全職員	カリキュラムの変更により、三冠王が増加した。また、3年家政科全員が食物1級に合格した。四冠王も3名出た。
			英語検定・漢字検定の合格率を上げる。	17	3.0	2.6	英語・国 語科全 職員	受験者数は増加したが、合格率は例年と大きく変化がなかった。
②特別活動	HR活動や生徒会活動・学校行事の充実	生徒自身による自発的な活動を実践する。	各ホームルーム委員の積極的活動と校内外における一人一役を推進する。	18	2.9	3.2	正副担 任	生徒一人ひとりが係りや役割を意識して遂行している。校外での活動を工夫する必要がある。
			生徒会・家庭クラブ活動を活性化して、地域行事やボランティア活動に積極的に参加する。	19	3.0	3.0	生徒会 主任・家 政科主 任	あいさつ運動や地域の行事に積極的に取り組めた。ボランティア活動の内容を検討する必要がある。
③生徒指導	基本的な生活習慣の確立	全生寮教育の充実を図り、全教職員による継続した指導を徹底する。	授業の折には必ず礼儀作法・服装・学習態度（遅刻時の指導も含む）など具体的指導に努める。	20	3.0	2.9	全職員	授業中の態度・挨拶・服装等、概ね良好であったが、教員間の情報共有を行い、継続した指導が必要である。
			交通ルールの遵守と自転車の二重ロックの徹底に努める。	21	3.0	3.0	生徒指 導主任	自転車指導に絞っての交通講話を実施できた。本校生の盗難はなかった。
④進路指導	個々の生徒の能力・適性を生かす進路指導の充実	三年間を見通した効果的なキャリアガイダンスを実施する。	生徒、保護者への進路ガイダンスの実施と充実を図る。	22	3.1	3.1	担任・副 担任・進 路指導	学年毎に進路ガイダンスを実施するなど進路意識の高揚に結びつく取組を実施できた。
			生徒、保護者への進路情報をこまめに提供する。	23	2.9	3.0	担任・副 担任・進 路指導	時期に応じたきめ細やかな指導を行っていく必要がある。
			新たな進路先（企業・大学）の開拓を図る。	24	3.0	3.0	進路指 導部主 任	県内外の企業から新規の求人いただいた。企業との信頼関係を構築していきたい。

⑤健康・安全教育	健康や安全に対する態度の醸成	健康・安全についての正しい知識と理解を深める。	健康診断など保健行事を円滑に実施し、生徒の理解に努める。	25	3.0	3.0	保健環境部主任	計画通り実施することができた。
		心身の健康の保持増進を實踐できる生徒を育成する。	担任・部顧問・カウンセラー部との連携を図り、早期問題解決にあたる。	26	3.0	3.0	保健環境部主任	さらに連携を深めると共に、情報の共有を図って問題解決に努めていきたい。
⑥人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ、解決のための実践力を身に付けさせる。	人権教育の学習を通し、全生徒・職員の意識を高める。	27	3.0	3.7	カウンセラー主任	人権集会を2回実施した。「人とのつながり」や「助け合う社会」といった部分の指導が効果的であった。
	カウンセリングの充実	カウンセリングマインドを持って生徒の相談に応じる。	生徒理解のための諸検査を実施し、個別面談に活用する。	28	3.0	3.7	カウンセラー主任	シグマ検査を実施し、担任との個別面談に有効活用できた。
			担任・他分掌・学年との連携を密にし、いじめやメール等の嫌がらせ・不登校の根絶を図る。	29	3.0	3.3	カウンセラー主任	担任・学年・生徒指導部と連携しながら、問題を抱えた生徒の早期発見・早期解決に努めた。
⑦特別支援教育	特別支援教育体制の整備	特別な教育的支援を必要とする生徒に対する支援体制の充実を図る。	校内委員会の設置、支援教育コーディネーターを中心に、必要に応じて職員の指導力の向上を目指して研修を実施する。	30	2.0	3.3	カウンセラー主任	職員研修会を1回実施した。個々の生徒に応じた具体的な支援方法についての研修が必要である。
⑧部活動	部活動の活性化	部活動の計画的かつ効率的な活動を目指す。	「全員部活動の日」の定着と部活動の活性化を図る。	31	3.0	3.0	生徒会主任	毎週火曜日の「全員部活動の日」は定着してきた。部活動変更が未定の生徒への対応を検討する必要がある。

【評価分野】 3 組織運営

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①校務分掌	適切な役割分担・組織的な活動と運営	各自の役割分担を明確にして、適切に仕事を処理する。	校務支援システムを有効に活用し仕事の負担軽減を図る。	32	3.2	3.0	各分掌主任	ポータルサイトの利用が増加するなど、有効活用できた。改善点もあるが、校務の軽減に繋がっている。
			学校全体の校務が円滑に推進できるように、分掌相互間の連携を図る。	33	3.0	2.8	各分掌主任	他の分掌との連携をもう少し深めていく必要がある。
②各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	各種委員会の活動の効率化と活性化を図る。	各種委員会での協議結果を、教育活動や学校経営に生かす。	34	2.9	2.4	各分掌主任 学年主	主任会や委員会報告などを生かそうとする努力がもう少し必要である。
③校内研修	研修体制の確立と実践	職員研修の充実を図る。	全員、年に1回以上はICTを活用した授業を公開する。	35	2.6	2.1	全職員	個人により差があるが、十分に活用できているとは言えない。教材研究を深める必要がある。
④教職員教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター等の研修に積極的に参加する。	各種公的研修会へ積極的・計画的に参加し、資質の向上と意識改革を図る。	36	2.5	2.6	全職員	個人・教科によりバラつきがある。参加しやすい体制づくりが必要である。

【評価分野】 4 教育環境								
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①学校環境の整備	潤いのある生活環境・教育環境の整備	清掃活動を通じ、協調性や奉仕の精神を養い、創意工夫の心を培う。	全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	37	3.1	3.1	全職員	生徒と共に活動できた。指示をすれば、素直に取り組む生徒が多い。自ら気づいて活動できる生徒を育てたい。
		施設・設備の有効活用を図り、安全点検等の管理を適切に行う。	施設設備の安全点検を計画的に行い、必要に応じて改修や補修を行う。	38	3.0	3.5	事務室	小さい修繕については早期対応ができた。大掛かりなものについては、県に改修工事の要求を続けていきたい。
②施設・設備の管理	施設・設備の安全管理と経費の節減	水道・光熱費、通信費等の節約に努める。	水道・光熱費、通信費等の節約に努める。	39	3.0	4.0	事務室	水道・光熱費・通信費とも概ね節約できた。予算の削減により今後一層の節約が必要である。
		情報機器等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンとプロジェクターを使いこなせるように努力すると共に、教科指導などに活用する。	40	2.9	2.8	全職員	活用する職員が増加してきた。全職員で取り組んでいきたい。
③情報インフラの整備・充実	教育活動全般の情報化	学校の情報発信源とし、PRの手段とする。	ホームページを見やすくし、定期的に更新し最新情報を伝達する。	41	4.0	4.0	教務主任	担当者の素早い対応で、ほぼタイムラグなく更新できた。
	ホームページの更新							
【評価分野】 5 開かれた学校づくり								
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①保護者との連携	PTA活動の充実	積極的に学校を開放し、地域からの信頼と理解を図る。	本校の教育活動を積極的に公開し、保護者や地域からの信頼と理解を深める。	42	3.0	3.0	教務主任	地域開放講座や各種説明会を行うことができた。
		PTA活動を活性化する。	PTA総会や諸活動への参加率を上げる。	43	3.1	3.0	正副担任・学年主任・教務主任	PTA総会は、73.5%の参加率であった。また、各種の行事に積極的に参加して頂いた。
②地域や関係機関との連携	学校間の連携の充実	他校や異校種との効果的な連携を図る。	県内の大学、近隣地域の高校・中学校との情報交換や連携を図る。	44	3.0	3.0	教務主任	中学校の先生方への働きかけについては、機会を見つけて行うことができた。
	外部講師の招聘	外部講師を効果的に活用する。	地域の人材を専門教科やHR等において効果的に活用する。	45	3.5	3.0	学科主任	民間講師招聘事業を通して、地域の方々を活用することができた。
	学校評議員との連携	学校評議員会を充実させる。	運営方針等学校評議員の意見を聞き学校運営に反映させる。	46	3.0	3.0	学校評価委員	2回の委員会を開催し、適切なアドバイスを頂くことができた。

【総評】

<p>評価の結果 (課題と問題点)</p>	<p>(1)本校教育の根幹と位置付けた全生寮教育は、充分効果を上げているものの時間が経過することで、生徒の意識が薄れてしまう面が見られる。根本的な見直しも含めて様々な角度から検討し、全職員で取り組みより良い方向に改善していく必要がある。</p> <p>(2)定員確保については、教務部を中心に中学校訪問や学校説明会を実施してきたが、定員を確保できなかった。進路実績や教育内容を積極的にPRしていく必要がある。</p> <p>(3)学習活動では、資格取得などについての取り組みは意欲的であるが、家庭学習については、課題がある時だけ取り組む生徒が多い。課題の出し方など教科間で連携していく必要がある。</p> <p>(4)不登校生徒への対応では、病院受診など専門機関へ結びつけることはできたが、その後の連携や対応が十分にできなかった。校内の連携や家庭との連携体制などの見直しが必要である。</p> <p>(5)各種検定の合格率では、特に情報処理科で1級取得率の向上が見られた。また、家政科の多種目1級合格者数が増加した。</p>
<p>来年度の改善策</p>	<p>(1)については、全職員に業務を割り当て、組織的に行うように改善する。また、ホームルームや授業でも折に触れて話をしたり、朝の挨拶運動や学校行事の際に、礼儀や挨拶について再確認を行うことで、三年間継続した指導を行う。</p> <p>(2)については、日頃の特色ある教育活動をより明確にアピールできる資料を作成し、積極的に中学校訪問を行い本校教育の内容について資料を活用した説明等を実施して、選ばれる学校を目指していく。</p> <p>(3)については、各教科の課題提出について指導を徹底し、家庭での学習時間を最低でも毎日1時間は行う習慣をつけさせる。また、マイルストーンへの記録を徹底させるとともに、個別面談等で活用していく。</p> <p>(4)については、不登校生徒に対する組織的な対応と情報をどのように共有化するかを検討し、職員研修を積極的に実施して職員の資質向上を図る。</p> <p>(5)については、本校教育の特色として重点的に取り組ませるとともに、高資格取得や他協会の検定受検も視野に入れた受検体制の構築を図る。</p>

平成27年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価生徒アンケート集計結果

- I 調査対象者数 335名
 II 調査回収率 97.9%
 III 評価基準 各質問に対して、

4: そう思う(あてはまる)	3: どちらかというと思う(ややあてはまる)
2: どちらかというと思わない(ややあてはまらない)	1: そう思わない(あてはまらない)

項目	番号	内 容	1学年	2学年	3学年	全体
1 教育活動	1	あなたは島商の努力目標やモットー(誠心誠意)を念頭に置いて行動している。	2.6	2.8	2.9	2.8
	2	あなたは積極的にあいさつを行っている。	3.2	3.2	3.3	3.2
	3	あなたは全生寮宿泊研修で養った精神を日頃の学校生活で活かしている。	2.6	2.8	2.9	2.8
	4	あなたはルールやマナーを守り、容儀や言葉遣いなどをきちんと行っている。	3.0	3.2	3.2	3.1
	5	あなたは日頃から周囲や相手のことを思いやって生活ができています。	3.1	3.2	3.3	3.2
	6	あなたは地域のイベントやボランティア活動に意識して参加している。	2.0	2.0	2.4	2.1
	7	あなたは部活動に熱心に取り組んでいる。	3.2	3.3	3.0	3.2
	8	先生方は生徒が校則違反をした時、きちんと指導している。	3.2	3.3	3.1	3.2
	9	先生方は親身になって何事にも相談にのってくれる。	2.6	2.9	2.7	2.7
	10	島商は進路に関する情報を提供してくれる。	2.9	3.0	3.0	3.0
	11	島商では命を大切に教育や人権・平和教育が行われている。	3.1	3.3	3.3	3.2
	12	島商ではボランティア活動など地域と交流する活動が行われている。	3.1	3.2	3.1	3.1
2 学習活動	13	あなたは進路や資格取得など目標を持って学習に励んでいる。	2.9	3.3	3.2	3.1
	14	あなたは家庭学習を1日60分以上行うよう努力している。	2.0	1.9	2.0	2.0
	15	島商の授業は工夫がなされ分かりやすい。	2.4	2.6	2.5	2.5
	16	島商の授業では教科書以外の補助教材や教育機器等が活用されている。	2.8	2.8	2.8	2.8
	17	島商では適性・進路に応じたコースや科目を選択する指導が行われている。	3.0	3.2	2.9	3.0
3 教育環境	18	島商では教育に必要な施設・設備が整っている。	2.7	2.8	2.7	2.7
	19	島商は清潔で清掃が行き届いている。	2.7	2.8	2.8	2.8
	20	島商では健康や安全に関する指導が行われている。	2.9	3.0	2.9	2.9
	21	あなたは環境問題に関心があり、ゴミ減量やリサイクル運動等を意識して取り組んでいる。	2.7	2.9	3.1	2.9
4 その他	22	島商の生徒会活動は生徒が中心となって運営している。	3.0	3.1	3.0	3.0
	23	あなたは学校の出来事を家庭で話している。	2.8	2.9	2.9	2.9

平成27年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価保護者アンケート集計結果

回収率	1年 97.3%	2年 97.1%	3年 99.2%	全体 97.9%
-----	----------	----------	----------	----------

I 以下の1～18について、次の評価基準により該当する数字を評価欄に記入してください。

評価基準

4: そう思う(あてはまる)	3: どちらかというと思う(ややあてはまる)
2: どちらかというと思わない(ややあてはまらない)	1: そう思わない(あてはまらない)

項目	番号	内 容	1年	2年	3年	全体
1 教育活動	1	本校の教育方針や努力目標はわかりやすいものになっている。	3.3	3.2	3.1	3.2
	2	子供は全生寮宿泊研修で養った精神を日頃の学校生活で活かしている。	3.0	3.0	2.8	2.9
	3	子供は社会のルールや本校のルールを良く守っている。	3.3	3.3	3.2	3.3
	4	子供は地域のイベントやボランティア活動に意識して参加している。	2.7	2.9	2.8	2.8
	5	子供は積極的に部活動に参加している。	3.6	3.7	3.3	3.5
	6	本校では、容儀・マナー・あいさつや言葉遣いなどの指導は十分行われている。	3.3	3.4	3.1	3.3
	7	本校は子供に関する保護者の相談にきちんと対応している。	3.1	3.2	3.0	3.1
2 学習活動	8	子供は授業が分かりやすいと言っている。	2.8	2.9	2.7	2.8
	9	子供は進路や資格取得など目標を持って学業に励んでいる。	3.1	3.3	3.2	3.2
	10	子供には日頃から家庭学習を行うように声をかけている。	3.0	3.0	2.7	2.9
3 教育環境	11	本校は教育に必要な施設・設備が整っている。	3.1	3.1	2.9	3.0
	12	子供は環境問題に関心があり、ゴミ減量やリサイクル運動等を意識して取り組んでいる。	2.8	2.8	3.0	2.9
	13	本校は清潔で清掃が行き届いている。	3.4	3.3	3.2	3.3
4 開かれた学校	14	本校の施設は保護者や地域に開放されている。	3.1	3.1	2.9	3.0
	15	本校は学校の様子や諸行事に関する情報を家庭や地域にきちんと提供している。	3.1	3.2	2.9	3.1
5 その他	16	PTA活動や学校行事に進んで参加している。	2.8	2.8	2.6	2.7
	17	子供は明るく生き生きとした学校生活を送っている。	3.4	3.4	3.2	3.3
	18	子供は学校での出来事を家庭で話してくれる。	3.2	3.3	3.1	3.2

1 評価の実施期日・場所等

- (1) 第1回 平成27年7月10日(金) 本校校長室
- (2) 第2回 平成28年3月16日(水) //

2 学校関係者評価委員

- 出田 春喜(学校評議員と兼務) 出席
- 林田 新吾(//) //
- 小田 澄香(//) //
- 佐原健太郎(//) //

3 学校関係者評価の内容

(1) 自己評価の結果について

○各項目の具体的方策や評価が適切に行われているかという点については、4段階評価で「学校経営分野」は3.6、「教育活動分野」が3.6、「組織運営分野」が3.8、「教育環境の整備・活用分野」が3.8、「開かれた学校づくり分野」が3.6であり、概ね適切であったと思われる。

(2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策について

○自己評価の結果を踏まえた今後の改善策が適切であるかという点については、4段階評価で「学校経営分野」が3.8、「教育活動分野」が3.6、「組織運営分野」が3.8、「教育環境の整備・活用分野」が4.0、「開かれた学校づくり分野」が3.8であり、適切であったと思われる。

(3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目について

○「学校の重点目標が適切に設定されているか」という点については、4段階評価で3.8、「自己評価の評価項目が適切であるかどうか」という点については、3.8であり、適切であったと思われる。

(4) その他

- 多様な進学先や就職先の実績があるので、その点をもっとPRして欲しい。特に保護者へPRを積極的に行ったがよい。
- 島商の生徒は、校外でもよく挨拶をしてくれる。この伝統を続けて欲しい。
- 卒業生の進路で、地元になかなか残らないのが残念である。地元への就職については難しいことであるが、取り組んで頂きたい。